

Title	ジャウィ文字にみるë==
Author(s)	森村, 蕃
Citation	大阪外国語大学学報. 48 p.35-p.47
Issue Date	1980-03-01
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80784
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ジャウイ文字にみる ۀ, ۀ

森 村 蕃

Huruf ۀ, ۀ dalam Tulisan Huruf Jawi

Shigeru Morimura

Huruf Jawi terdiri dari 34 buah huruf, yaitu 29 buah huruf Arab asli dan 5 buah huruf tambahan. Dalam tulisan huruf Jawi terdapat lagi huruf ۀ, ۀ. Apakah huruf ini? Kalau diteliti huruf ini, sifat dan cara pemakaiannya adalah sebagai berikut:

1. Huruf ini berbunyi /t/.
2. Huruf ۀ adalah huruf yang berdiri sendiri, sedangkan huruf ۀ adalah huruf akhir.
3. Huruf berbunyi /t/ yang dipakai untuk dihubungkan dengan huruf yang di belakangnya, bukan huruf ۀ, ۀ, melainkan huruf Ta.

Sifat dan cara pemakaian huruf ۀ, ۀ tersebut di atas sama dengan sifat dan cara pemakaian Tā' Marbūṭa bahasa Arab. Lagi pula huruf ۀ, ۀ ini banyak terdapat pada perkataan yang kata pokoknya berasal dari kata Arab yang berakhiran Tā' Marbūṭa.

Berdasarkan alasan-alasan ini, dapat disimpulkan, bahwa huruf ۀ, ۀ dalam tulisan huruf Jawi bukan variasi huruf Ta, melainkan Tā' Marbūṭa dari bahasa Arab.

は じ め に

インドネシア語がアラビア語から受けた影響に文字の影響がある。インドネシア語の音を写すのに29のアラビア文字が採用され、アラビア語に存在しないインドネシア語の音を写すために5文字が考案された。これら34の文字はジャウイ文字といわれるが、このジャウイ文字によって写されたインドネシア語の中に、34の文字以外に ۀ あるいは ۀ という文字が見られる。従来、この ۀ, ۀ という文字は、Ta ㇀ の文字と同様、/t/ の音を写す文字とされてきた。しかし、/t/ の音を写すのに Ta ㇀ との関係や、この文字の使い方、実体は明らかでない。

本稿の目的は、ジャウイ文字表記によるインドネシア語に見られる ۀ, ۀ という文字がいかに用いられ、いかなる性格を有するか考察し、ۀ, ۀ は何か明らかにすることにある。

インドネシアにイスラム教・イスラム文化が渡来するに及び、インドネシア語はアラビア語の影響を大いに受けた。文字の面ではアラビア文字が伝えられた。インドネシア語の音を写すのに29のアラビア文字に加えて5文字が考案された。5文字とは Pa ^{註(1)}, Ca, Nya^{註(2)}, Ga ^{註(3)}, Nga であり、アラビア語に存在しないインドネシア語の音 /p/, /č/, /ɲ/, /g/, /ŋ/ をそれぞれ写すためのものである。これら34の文字はジャウィ文字 (Huruf Jawi) といわれる。アラビア文字が伝えられて以後、インドネシア語はジャウィ文字で表記されるが、20世紀に至り、ローマ字がジャウィ文字にとって代るようになっていく。今日では古典インドネシア文学作品や宗教関係書などにジャウィ文字をみる程度に至っている。

このジャウィ文字によって写されたインドネシア語をみると、上述の34の文字のほかに **ة** という文字が目につく。この **ة** という文字は、Ta **ت** という文字と同様、/t/ の音を写すのに使用されている。しかし、/t/ の音の位置によって Ta とは使用法が異なっている。

ジャウィ文字表記において、/t/ の音は、通常 Ta の文字で写される。Ta は、音節のはじめにたつ /t/ の音も、音節のおわりにたつ /t/ の音も写すのに使用され、音節の位置によって語頭にも、語中にも、語末にも現れる。

titah	/titah/	تيتاه	<王の言葉>
terbang	/tərbaŋ/	تربانغ	<飛ぶ>
betina	/bətina/	بتين	<雌>
ratna	/ratna/	رنن	<宝石>
batu	/batu/	بانو	<石>
obat	/obat/	اوبت	<薬>
kota	/kota/	كوت	<町>

即ち、Ta は頭字形、中字形、尾字形、単独形のすべての字形を有し、後にくる文字とは接続可能な文字である。

一方、**ة** という文字は、ただ語根の最後の音節の中の /t/ の音を写すのに使用されている。勿論、この場合 Ta も使用される。いま、母音を V、子音を C として語根の最後の音節構造を示すと、CV (開音節)、CVC または VC (閉音節) と表わすことができる。

CV という開音節では、この **ة** という文字は、C の位置にある /t/ の音を写すのに使われている。但し、この場合、/t/ の音の次の母音がジャウィ文字表記上、表記されないときである。

kata	/kata/	كات	<語>
------	--------	-----	-----

kata の最後にある音節 /-ta/ は CV という音節構造の開音節で、この開音節の C の位置にある /t/ の音は、勿論 Ta で写されるが、**ة** という文字でも写される。**ة** という文字でも写される理由は、/t/ の音の次の母音 /a/ がジャウィ文字表記上、表記されないからである。

他例：	itu	/itu/	ايت، اية	<それ>
	suatu	/suatu/	سوات، سواة	<或る>
	makota	/makota/	مكوت، مكوة	<王冠>

これらの語も、最後の音節の中の /t/ の音の次にくる母音がジャウィ文字表記において表記されないため、ة.ة という文字で写される。

しかし、CV という開音節において、C の位置の /t/ の音の次にある母音がジャウィ文字で表記される場合は、必ず Ta が使用されている。

batu	/batu/	باتو	<石>
------	--------	------	-----

batu の最後にくる開音節 /-tu/ の母音 /u/ はジャウィ文字表記では Wau で表記されるために、/t/ の音は後にくる文字と接続可能な Ta で写され、ة という文字、あるいは ä という文字では写されない。

このように、CV という音節構造の開音節において、ة.ة という文字が C の位置にある /t/ の音を写すのに使われているときは、/t/ の音の次の母音がジャウィ文字表記法上、表記されないときであり、/t/ の音の次の母音が表記されるときは、ة.ة という文字は使用されておらず、後にくる文字と接続可能な Ta が使用されている。Ta は、V が表記されようがされまいが、これにかかわらず使用される。

語根の最後の音節が VC、あるいは CVC という閉音節では、この ە.ة という文字は、これらの閉音節の最後の C の位置にある /t/ の音を写すのに使用されている。

buat	/buat/	بوات، بواة	<行う>
tempat	/tempat/	تفت، تفتة	<場所>

buat の最後にある音節 /-at/ は VC という音節構造の閉音節で、この閉音節の C の位置にある /t/ の音は Ta でも ە でも写される。また tempat の最後の音節 /-pat/ は CVC という音節構造の閉音節である。この閉音節の最後の C の位置にある /t/ の音は、Ta で写されるほか、ä という文字でも写される。

他例：	sangat	/saŋat/	ساغت، ساغة	<非常に>
	darat	/darat/	دارت، داراة	<陸>

このように、VC、CVC という音節構造の閉音節においては、これらの閉音節の最後の C の位置にある /t/ の音を写すのに ە.ة という文字が使用されている。この場合、Ta も同じように使用される。

ジャウィ文字表記のインドネシア語にみられる ە.ة という文字は、語根が「アラビア語のター・マルブータ (Ta' Marbūṭa) ە.ة を有する語」に由来するものに多く使用されている。語根

が「アラビア語のター・マルブータを有する語」に由来するものは、最後が /t/ の音の閉音節でおわるものが多い。この /t/ の音を写すのに ة، ء، ة という文字が使用されている。つまり，VC，CVC という音節構造の最後のCの位置にある /t/ の音を写すのに使用されている。

jariat	/jariat/	جربة	<女中>
derajat	/dəraʃat/	درجة	<度>
syarikat	/ʃarikat/	شركة	<組合>
surat	/surat/	سورة	<手紙>
sunat	/sunat/	سونة	<割礼>
sahwat	/sahwat/	سهوة	<熱情>
fakat	/fakat/	فقه	<一致>
kuat	/kuat/	كوة	<強い>
gelorat	/gəlorat/	كلورة	<荒天>
muslihat	/muslihat/	مصلحة	<策略>
malaikat	/malaikat/	ملائكة	<天使>
munajat	/munajat/	مناجاة	<秘めたる祈り>
hemat	/hemat/	هيفة	<意向>

また、語根が「アラビア語のター・マルブータを有する語」に由来するものは、ジャウイ文字表記では、「アラビア語のター・マルブータを有する語」そのままの字形が用いられたりしている。

istirahat	/istirahat/	استراحة	<休息>
istiadat	/istiadat/	استعادة	<習慣>
baraat	/baraʔat/	براءة	<解放>
berkat	/bərkat/	بركة	<祝福>
jumaat	/jumaʔat/	جمعة	<金曜>
hormat	/hormat/	حرمة	<尊敬>
hadirat	/hadirat/	حاضرة	<出席>
hakekat	/hakekat/	حقيقة	<事実>
hikayat	/hikayat/	حكاية	<話>
hayat	/hayat/	حياة	<生命>
khianat	/xianat/	خيانة	<裏切り>
dawat	/dawat/	دواة	<インクスタンド>
daulat	/dawlat/	دولة	<勢力>
dahsyat	/dahšat/	دهشة	<当惑>

rahmat	/rahmat/	رحمة	<慈悲>
rakyat	/ra'yat/	رعية	<住民>
riwayat	/riwayat/	رواية	<話>
zakat	/zakat/	زكاة	<喜捨>
saat	/sa'at/	ساعة	<時>
selamat	/səlamat/	سلامة	<安全>
sunat	/sunat/	سنة	<割礼>
siasat	/siasat/	سياسة	<統治>
sahabat	/sahabat/	صحابه	<友人>
sehat	/sehat/	صحة	<健康な>
sifat	/sifat/	صفة	<性格>
salat	/salat/	صلاة	<イスラムの祈とう>
darurat	/darurat/	ضرورة	<緊急>
taat	/ta'at/	طاعة	<従順>
tabiat	/tabiat/	طبيعة	<性質>
adat	/adat/	عادة	<習慣>
akibat	/akibat/	عاقبة	<結果>
ibadat	/ibadat/	عبادة	<崇拜>
izzat	/izzat/	عزة	<名誉>
alamat	/alamat/	علامة	<しるし>
filasafat	/filasafat/	فلسفة	<哲学>
kodrat	/kodrat/	قدرة	<力>
kerabat	/kərabat/	قربانة	<親戚>
kuat	/kuat/	قوة	<強い>
kiamat	/kiamat/	قيامه	<(最後の審判日に おける) 万人の復活>
kalimat	/kalimat/	كلمة	<文>
lezat	/ləzat/	لذة	<おいしい>
martabat	/martabat/	مرتبة	<地位>
musyawarat	/mušawarat/	مشاورة	<協議>
masyarakat	/mašarakat/	مشاركة	<社会>
manfaat	/manfa'at/	منفعة	<利益>
mupakat	/mupakat/	موافقة	<一致>
nikmat	/nikmat/	نعمة	<愉快>
niat	/niat/	نية	<意図>

wasiat	/wasiat/	وصية	< 遺言 >
wafat	/wafat/	وفاة	< 死 >
hemat	/hemat/	همة	< 意向 >
hebat	/hebat/	هيبة	< 恐ろしい >

インドネシア語において、語根はそのまま語として使用されるが、語根は更に接辞がつけられて使用される。語根に接頭辞がついた語は、その語根の最後の音節の中の /t/ の音を写すのに、やはり **ة, ă** という文字が使用されている。

berkata	/berkata/	بركات، بركة	< 言う >
memperbuat	/məmpərbuat/	مفريات، مفريوات	< 作る >
melihat	/məlihat/	مليهة، مليهة	< 見る >
menurut	/mənurut/	منورت، منورة	< 従う >

berkata という語は、語根 kata に接頭辞 ber- がついた語であり、memperbuat という語は、語根 buat に接頭辞の per- と me- がついた語である。語根 kata と buat の /t/ の音が **ة** の文字でも写されることは前述した通りである。melihat という語は、語根 lihat /lihat/ に接頭辞 me- がついた語である。この語根の最後にある音節 /-hat/ は CVC という音節構造の閉音節であり、この閉音節の最後の C の位置にある /t/ の音は、Ta で写されるのみならず、**ă** という文字でも写される。また menurut という語は、語根 turut /turut/ に接頭辞 me- がついた語である。この語根の最後にある音節 /-rut/ は、やはり CVC という音節構造の閉音節であり、この閉音節の最後の C の位置にある /t/ の音は、Ta で写されるのみならず、**ة** という文字でも写される。

このように、語根に接頭辞のみついた語は、その接頭辞と無関係に、その語根の最後の音節の中の /t/ の音を写すのに **ة, ă** という文字も使用されている。

ジャウィ文字表記によるインドネシア語にみられる **ة, ă** という文字は、これまでみてきたように、語根の最後の音節の中の /t/ の音を写すのに使用されている。この文字は語根の最後に現れる文字である。Alif ا, Dal د, Ğal ج, Ra ر, Zay ز, Wau و の 6 文字のいずれかの文字のあとや、単独の Hamzah ء のあとでは **ة** という文字が使用されている。また、上述の Alif, Dal, Ğal, Ra, Zay, Wau の 6 文字以外の文字のあとでは **ă** という文字が使用されている。上述の 6 文字と単独の Hamzah はあとにくる文字とはつながらないから、あとにくる文字はいかなるものも頭字形か、単独形のいずれかである。**ة** という文字は、上述の 6 文字のいずれかの文字のあとや、単独の Hamzah のあとにきて、しかも語根の最後にあるから、頭字形ではなくて単独形であると言える。一方、上述の 6 文字以外の文字はあとにくる文字とはつながるから、あとにくる文字はいかなるものも中字形か、尾字形のいずれかである。**ă** という文字は、

上述の6文字のあとにきて、しかも語根の最後にあるから、中字形ではなくて尾字形であると言える。

更に、ةという文字が単独形で،ةという文字が尾字形であると言える理由は、語根に接尾辞 (-lah, -tah, -kah, pun のような一種の接尾辞をも含む) がついて文字が接続される場合、ة،ةに代って後の文字と接続可能な文字の Ta が用いられるという理由による。

まず、最後の音節が CV という開音節の語根に接尾辞がついた例をみよう。

kata	/kata/	كَا تَ، كَا تَ	<語>
katanya	/katana/	كَ نَا نَ	<彼が言う>
mengatakan	/məgatakan/	مَغ تَا كَنَ	<言う>
perkataan	/pərkataan/	فَرْ كَا تَا نَ	<言葉>

katanya は語根 kata に接尾辞 -nya がついたものである。また mengatakan は語根 kata に接頭辞 me- と接尾辞 -kan とがついた語であり、perkataan は語根 kata に接頭辞 per- と接尾辞 -an がついた語である。接尾辞が語根 kata につくと、kata の最後の開音節 /-ta/ の中の母音 /a/ がジャウィ文字表記上、Alif で表記され、/t/ の音を写す文字はこの Alif と接続されることになる。従って、/t/ の音は後にくる文字と接続可能な Ta という文字でもって写されている。

次に、最後の音節が VC という閉音節の語根に接尾辞がついた例をみよう。

buat	/buat/	بَوَاتَ، بَوَاتَ	<なす>
perbuatkan	/pərbuatkan/	فَرْ بَوَاتَا كَنَ	<作る>
perbuatan	/pərbuatan/	فَرْ بَوَاتَا نَ	<行為>

perbuatkan は語根 buat に接頭辞 per- と接尾辞 -kan がついた語であり、perbuatan は語根 buat に接頭辞 per- と接尾辞 -an がついた語である。このように、語根 buat に接尾辞がつくと、語根 buat の最後の閉音節 /-at/ の中の /t/ の音を写す文字は、後にくる文字と接続されることになるが、ة،ة という文字は使用されず、後の文字と接続可能な Ta という文字が使用されている。接尾辞 -kan の場合は Kaf Kecil ك に、接尾辞 -an の場合は Nun ن に接続される。

こんどは、最後の音節が CVC という閉音節の語根に接尾辞がついた例をみよう。

hormat	/hormat/	حَرَمَاتَ، حَرَمَاتَ	<敬意>
hormatnya	/hormatna/	حَرَمَاتَا	<彼の敬意>
menghormati	/məghormati/	مَغْ حَرَمَاتَا نِ	<尊敬する>
kehormatan	/kəhormatan/	كَ حَرَمَاتَا نَ	<榮譽>

hormatnya は語根 hormat に接尾辞 -nya がついたものである。menghormati は語根 hormat

に接頭辞 me- と接尾辞 -i がついた語であり, kehormatan は語根 hormat に接頭辞 ke- と接尾辞 -an がついた語である. 語根 hormat に接尾辞がつくと, この語根の最後の閉音節 /-mat/ の中の /t/ の音を写す文字は, やはり後にくる文字と接続されることになる. この場合も, 後にくる文字と接続可能な文字の Ta が使用され, これが接尾辞 -nya の場合は Nya ﺕ に, 接尾辞 -i の場合は Ya ﺍﻱ に, また接尾辞 -an の場合は Nun ﻥ に接続される.

更に, 他例として語根 selamat と kuat に接尾辞がついた例を示すと次のようになる.

selamat	/səlamat/	سلامت، سلامة	<無事な>
selamatlah	/səlamatlah/	سلامتله	<無事なのです>
keselamatan	/kəsəlamatan/	كسلمان	<無事>
kuat	/kuat/	قوت، قوة	<強い>
kuatnya	/kuatnja/	قوتث	<強さ>
menguatkan	/məŋuatkan/	مفوتكن	<強める>
kekuatan	/kəkuatan/	كقوانث	<力>

このように, 接頭辞に関係なく, 一旦, 語根に接尾辞 (及び一種の接尾辞) がつくと, 語根の最後の音節の /t/ の音を写すのに ﺕ, ﺍﻱ という文字は, もはや使用されていない. 語根の最後の音節の /t/ の音は後にくる文字と接続可能な文字の Ta でもって写され, この Ta が後にくる文字と接続されている. つまり, ﺕ も ﺍﻱ も後にくる文字とは決して接続されない文字であると言うことができる. ﺕ は前にくる文字にも, 後にくる文字にもつながらない. 従って単独形である. 一方, ﺍﻱ は, 前にくる文字にはつながるが, 後にくる文字とはつながらない. 従って尾字形である.

また更に, ジャウィ文字にみる ﺕ という文字が単独形で, ﺍﻱ という文字が尾字形であると言える理由は, 重複語の場合をみると明らかである. ジャウィ文字表記において重複を示すには, アラビア数字の 2 である ٢ が語根の左上の部分につけられる. そして, この ٢ の前にくる文字はいかなるものも, 単独形か尾字形のいずれかである.

pohon	/pohon/	فوهن	<木>
pohon-pohon	/pohon-pohon/	فوهن٢	<木々>
surat	/surat/	سورت	<手紙>
surat-surat	/surat-surat/	سورت٢	<手紙 (複数)>
hari	/hari/	هاري	<日>
hari-hari	/hari-hari/	هاري٢	<日々>

pohon-pohon は語根 pohon が重複された語である. この重複語の語根の最後の文字 Nun は尾字形である. surat-surat は語根 surat が重複された語である. この重複語の語根の最後の文字 Ta は単独形である. また hari-hari は語根 hari が重複された語であるが, この語根の最後

の文字 Ya は単独形である。

更に接頭辞がついた重複語の場合も ʾ の前にくる文字はいかなるものも接頭辞に関係なく、単独形か尾字形のいずれかである。

sehari-hari	/səhari-hari/	سَهَارِي	<日常の>
bermacam-macam	/bərmacam-macam/	بِرْمَاچِم	<いろいろな>

sehari-hari は語根 hari が重複されたものに接頭辞 se- がついた重複語である。接頭辞 se- がついて ʾ の前の文字 Ya は単独形である。bermacam-macam は、語根 macam が重複されたものに接頭辞 ber- がついた重複語である。接頭辞 ber- がついて ʾ の前の文字 Mim は尾字形である。

また、接尾辞がついた重複語の場合も、ʾ の前にくる文字はいかなるものも、単独形か尾字形のいずれかである。

pohon-pohonan	/pohon-pohonan/	فُوهُنْ	<木々>
surat-suratnya	/surat-suratnja/	سُورَتَاكُنْ	<彼の手紙(複数)>
sehari-harian	/səhari-harian/	سَهَارِيَّائِيْنْ	<一日中>

pohon-pohonan は語根 pohon が重複されたものに接尾辞 -an がついた重複語である。接尾辞 -an がついて ʾ の前の文字 Nun は尾字形である。surat-suratnya は重複語 surat-surat に接尾辞 -nya がついたものであるが、接尾辞がついて ʾ の前にくる文字 Ta は単独形である。また sehari-harian は語根 hari が重複されたものに接頭辞 se- と接尾辞 -an とがついた重複語である。接頭辞と接尾辞がついて ʾ の前の文字 Ya は単独形である。

このように、ジャウィ文字表記において、重複語の場合、接頭辞、接尾辞があるなしにかかわらず、ʾ の前の文字はいかなるものも単独形か尾字形のいずれかである。たとえ、ʾ の前の文字が後にくる文字と連接可能な性格を有する文字であっても、ʾ の前では単独形か尾字形のいずれかである。

さて、ジャウィ文字にみる ة، ة という文字は、重複語の語根の最後、即ち ʾ の前にも現れるのである。つまり「重複語の語根」の最後にある音節の中の /t/ の音を写すのにも使用されている。

kata-kata	/kata-kata/	كَاتَا، كَاتَا	<語(複数)>
kata-katanya	/kata-katanja/	كَاتَاكُنْ، كَاتَاكُنْ	<それらの語>
kuat-kuat	/kuat-kuat/	قُوْتَا، قُوْتَا	<非常に強い>
sekuat-kuatnya	/səkuat-kuatnja/	سَقُوْتَاكُنْ، سَقُوْتَاكُنْ	<出来るだけ強い>
sahabat-sahabat	/sahabat-sahabat/	صَحَابَتَا، صَحَابَتَا	<友人たち>
sahabat-sahabatnya	/sahabat-sahabatnja/	صَحَابَتَاكُنْ، صَحَابَتَاكُنْ	<彼の友人たち>

重複語の場合、接頭辞、接尾辞があるなしにかかわらず、ﺀの前の文字はいかなるものも単独形か尾字形のいずれかであるから、ﺀの前に現れる ﺀﺀﺀ という文字も、単独形か尾字形のいずれかであると言える。ﺀ という文字は前の文字とも後の文字ともつながらない。従って単独形であると言える。一方、ﺀ という文字は、前にくる文字とつながるが、後にくる文字とはつながらない。従って尾字形であると言える。

ジャウィ文字表記によるインドネシア語にみられる ﺀﺀﺀ という文字は、/t/ の音を写すこと、単独形及び尾字形であること、/t/ の音を写す文字が後にくる文字と連接されるときは、ﺀﺀﺀ という文字は使用されずに Ta という文字が使用されるということが明らかになったが、この ﺀﺀﺀ という文字の性格及びその使い方は、アラビア語のター・マルブータ (Ta' Marbūṭa) ﺀﺀﺀ の性格及びその使い方と一致している。

アラビア語では、ﺀﺀﺀ という文字はター・マルブータといわれ、語末に現れる文字である。ター・マルブータを有する語のほとんどは、性が女性である。ター・マルブータが女性形語尾を表わすのに使用されるゆえんである。

جدة	jadda	<祖母>
مدرسة	madrassa	<学校>
قهوة	qahwa	<コーヒー>
شجرة	šajara	<木>
نظيفة	naẓīfa	<清潔な>
جوزة	jauza	<くるみ>
سنة	sana	<年>
لغة	luga	<言語>
عربية	'arabīya	<アラビアの>
رخصة	rakīṣa	<安価な>
قديمة	qadīma	<古い>
قراءة	qirā'a	<読むこと>
زكاة	zakāh	<施し>
لذيذة	ladīda	<おいしい>

アラビア語において、Alif ا , Dal د , Dhal ذ , Rā ر , Zay ز , Waw و の6文字と単独の Hamzah ءの場合、これらはあとにくる文字とはつながらないから、これらのあとには ﺀ という文字が使用されている。また、上述の6文字と単独の Hamzah 以外の文字の場合、あとにくる文字とはつながるから、あとには ﺀ という文字が使用されている。つまり、ﺀ という文字は単独形であり、一方、ﺀ という文字は尾字形である。まずこの点において、ジャウィ文字にみる ﺀﺀﺀ という文字は、このアラビア語のター・マルブータと一致する。

ター・マルブータは /t/ の音を写す。ター・マルブータ自体、発音の省略がおこなわれずに発音されると、/t/ の音の実現である。古典アラビア語（正則アラビア語）においても、アラビア語方言においても、ター・マルブータを有する語のあとに属格の名詞がきたときとか、ター・マルブータを有する語に人称代名詞の接尾辞がついたときとか、ター・マルブータを有する語に接尾辞である双数語尾がついたときは、ター・マルブータは必ず発音される。そして、ター・マルブータを有する語に人称代名詞の接尾辞がついた場合、また、ター・マルブータを有する語に接尾辞である双数語尾がついた場合は、ター・マルブータに代って Ta' ʾ が /t/ の音を写すのに使用され、これが後の文字と接続される。

مدينة	madīna medīne (方言) ^{註(4)}	<町>
مدينة النبي	madīnat un-nabīyi medīnet en-nâbī (方言) ^{註(5)}	<予言者(マホメット)の町>
مدینتك	madīnatuka medīnetek (方言) ^{註(6)}	<君の町>
مدینتان	madīnatāni medīnetên (方言) ^{註(7)}	<二つの町>

مدينة のように語を単独に発音する際、古典アラビア語（正則アラビア語）ではター・マルブータ以下を発音しても、しなくてもどちらでもよいが、アラビア語方言ではター・マルブータは発音が省略される。しかし、مدينة に النبي <予言者の>のような属格の名詞があとにきたり、ك <君の>のような人称代名詞の接尾辞がついたときとか、ـن のような接尾辞の双数語尾がついたときは、ター・マルブータは必ず発音される。そして、それぞれ接尾辞がつくと、ター・マルブータに代って Ta' の文字が /t/ の音を写すのに使用され、これがあとの文字と接続される。

このように、アラビア語においてター・マルブータは /t/ の音を写し、単独形と尾字形がある。ター・マルブータを有する語に接尾辞がつくと、ター・マルブータに代って Ta' の文字が /t/ の音を写すのに使用され、これがあとの文字と接続される。ジャウィ文字にみる ٲ, ٴ という文字の性格及びその使い方は、このアラビア語のター・マルブータの性格及びその使い方と一致する。更に、ジャウィ文字にみる ٲ, ٴ という文字は、語根がアラビア語のター・マルブータを有する語に由来するものに多く使われていることを考えあわせると、ジャウィ文字にみる ٲ, ٴ という文字は、アラビア語のター・マルブータがそのままとり入れられ、使われるようになったと言える。ジャウィ文字にみる ٲ, ٴ という文字は、新しく考案された文字でもなく、Ta という文字の変形でもない。

お わ り に

ジャウィ文字にみる **آ** という文字は、「語根がアラビア語のター・マルブータを有する語に由来するもの」にのみ使用されているのではない。「語根がアラビア語のター・マルブータを有する語に由来するもの」以外のものにも使用されている。

ジャウィ文字にみる **آ** という文字は、その使い方を Ta という文字と比較すると、Ta より限られてくる。この文字は、Ta と同じように /t/ の音を写すためか、Ta の変形文字であると考えられがちであるが、決して Ta の変形文字ではなく、また新しく考案された文字でもない。ジャウィ文字にみる **آ** という文字は、アラビア語のター・マルブータがそのままとり入れられて、使われるにいたったのである。

註

- (1) /p/ の音を写すのに Pa のほか Fa **ف** も使用される。
- (2) 単独形において、**و**，尾字形においては **و** という文字も使用される。
- (3) **ظ** という文字も使用されることがある。
- (4) De Lacy O'leary, D. D.; Colloquial Arabic, London, 1951. 参照。
- (5) *ibid.*
- (6) *ibid.*
- (7) *ibid.*

主 要 参 照 文 献

- Oemar Sastradiwiry; Edjaan Bahasa Indonesia Dengan Huruf Arab, Djakarta, 1954.
- Muhtarun; Peladjaran menulis dan membatja Huruf Arab-Indonesia untuk S.M.U.P. & S.M.U.A. Bag. Sastera S.G.&S.G.A., Yogyakarta, 1951.
- H. C. Klinkert; Nieuw Maleisch-Nederlandsch Woordenboek met Arabisch Karakter, Vijfde Druk, Leiden, 1947.
- M.B. Lewis; A Handbook of Malay Script, London, 1958.
- A.S. Tritton, D. Litt; Teach Yourself Arabic, London, 1967.
- David Cowan; An Introduction to Modern Literary Arabic, London, 1975.
- De Lacy O'leary, D.D.; Colloquial Arabic, London, 1951.
- Frayha, Anis; The Essentials of Arabic, Beirut, 1958.
- Hans Wehr; A Dictionary of Modern Written Arabic edited by J Milton Cown, Third Edition, New York, 1976.
- H.C. Klinkert; De Pelandoek Djinaka of het Guitige Dwerghert, Leiden, 1893.
- J.S.A. van Dissel; Hikajat si-Miskin, Leiden, 1897.
- Muhammad Idris; Hikayat Indra Bangsawan, Singapura, 1338 (回教暦).
- Muhammad Idris; Hikayat Abu Nawas, Singapura, 1922.
- 黒柳恒男, 飯森嘉助; アラビア語入門, 東京, 1976.
- T.F. Mitchell; Colloquial Arabic, London, 1976.

Soetan Moehammad Zain; Zaman Baroe, Tjetakan jang Ketiga, Betawi, 1948.

Zuber Usman; Kitab Lembaga, Djilid II, Djakarta, 1950.

A. Rosadi, R.M. Suhud; Tjara Menulis Huruf Arab Melaju, Bandung, 1960.

Dr. Jochanan Kapliwatzky; Arabic Language and Grammar, Jerusalem, 1940.

Dr. Jochanan Kapliwatzky; Arabic Language and Grammar, part II, Jerusalem, 1950.

W. Wright, LL.D.; A Grammar of the Arabic Language, third edition, London, 1967.

F. Steingass, Ph.D.; The Student's Arabic-English Dictionary, London, 1884.

J.A. Haywood, H.M. Nahmad; A New Arabic Grammar of the Written Language, London, 1962.

Elias A. Elias; The School Dictionary English-Arabic, Fourth Edition, Cairo, 1940. etc.